



小学校高学年向け

奴隷の少年 どう生きる



偕成社

彼方の光

シェリー・ピアソル 著 斎藤倫子 訳

11歳の少年サミュエルは、黒人奴隷として農場で暮らしていました。お母さんが他の家に売られてしまったため、同じ農場で働いている奴隷リリーとハリソンに育てられました。

ある日サミュエルは、高級な皿を割ってしまい、奥さまにひどく叱られてしまいます。リリーにまで、罰として夕ご飯抜きだと叱られ落ち込んでいるサミュエルに、ハリソンはこう言います。「今夜は、まぶたをあけ

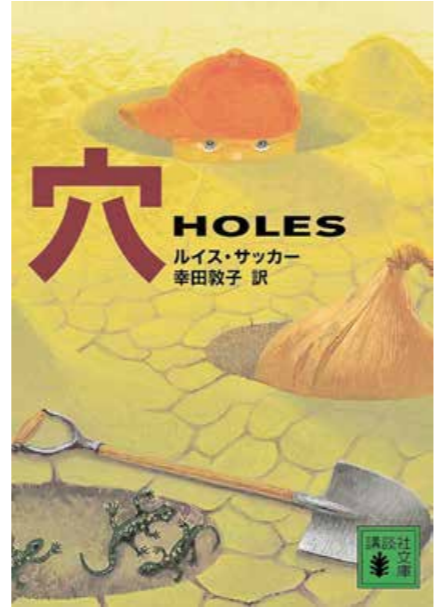
て寝てろ」と。何が起きるのか聞いても「気をつけてろ」といっただけで理由を教えてもらえず、不安と恐怖におびえながら寝床で待つサミュエルでしたが…。

この物語の舞台は160年ほど前のアメリカです。そこにはかつて「地下鉄道」と呼ばれる奴隷を助けるための組織があったそうです。命の尊さや人権について、深く考えさせられる物語です。 (今野陽子さん)



海外編

先週に引き続き、宮城県図書館の司書さんに、この夏おすすめの一冊を教えてくださいました。今回は海外編です。日本の作品とは別の味わいがあるかも。さあ、本の世界に飛び込んでみましょう。



講談社

穴 HOLES

ルイス・サッカー 著 幸田敦子 訳

しかし、本当の目的は別にあったのです。

ある日、仲間のゼロが脱走します。心配したスタンリーも後を追いかけてきます。この先2人に待ち受けているものはいったい…。スタンリーは不運に打ち勝つことができるのでしょうか。

所々に過去の話が挿入されているのですが、ここにも注目してください。徐々に謎が明らかになっていきますよ。 (三沢幸子さん)

掘り続ける真の目的は

まずい時にまずい場所にいたために、代々イェルナツツ家の人々は不運な目にあってきました。それは、昔ひいひいじいさんが豚を盗んで呪いをかけられたからだとか。主人公のスタンリー・イェルナツツも、たまたまそこに居合わせたために無実の罪で矯正キャンプに送られてしまいました。

その施設ではひたすら穴を掘らされる毎日。なぜ掘るのか。所長いわく「人格形成のため」。

小学校低学年向け

のんびり過ごせるかな



あすなる書房

フィーフィーのすてきな夏休み

エミリー・ロッタ 作 さくまゆみ 訳

といけないなんて！ 1等賞をゲットしてフィーフィーは豪華な夏休みを過ごすことができるのでしょうか。いつも頑張っているお母さんのお願いを手伝うのも、このお話のポイントです。

「お母さん、いつもありがとう」という気持ちがあふれてくる、おすすめの一冊です。ほかにもチュウチュウ通りシリーズもあるので合わせて読んでみてください。

(相沢双葉さん)

チュウチュウ通り3番地に住んでいる子だくさんで大忙しのフィーフィー。ある日、フィーフィーは1週間でもいいから、誰もいない島でのんびりしたいと思いました。子どもたちもフィーフィーには休んでほしくて協力します。

そして、ある広告の懸賞の1等賞では、夏休みの旅行が当たるといので大喜びしますが、なんとあの、まずいチーズ・ホイホイをたくさん食べない

小学校中学年向け

友達の大切さに気づく



あかね書房

なかなおりの魔法

湯湯 作 高野素子 訳

みなさんは友達とけんかをしてしまったことはありますか？ この本の主人公トゥートゥルも友達とけんかをしてしまいました。

友達4人から意地悪をされ、腹が立ってしょうがないトゥートゥルは、不思議なおじいさんから教えてもらったおまじないをやってみます。すると気分がすっきりして、トゥートゥルは家へ帰りました。しかし、次の日学校に行ってみると4人は全

員お休みしています。気になって友達の家へ行ってみると、トゥートゥルのしたおまじないのせいで、みんなが大変なことになっていました。

トゥートゥルはとても後悔します。腹が立っていたことなんてどうでもよくなるくらい、友達が大切だと気づくのです。

たとえけんかをして、腹が立ったとしても、何より友達が大事だということを教えてくれる話です。 (高橋憲恵さん)